

大学院相当

データサイエンス・AI全学教育機構

ティーチング・フェロー 育成プログラム

DS・AIの専門性に加えて授業TAを通じて教える力を身につけ、授業を担当できるレベルの人材（ティーチング・フェロー）となることを目的とします。

プログラム概要

本機構の教育プログラムは、①DS・AIを駆使し、②DS・AIで交わり、③DS・AIを教えることのできる「共創型エキスパート」人材の育成を目指しています。中でも特に③DS・AIを教える能力を涵養するため、2024年度よりティーチング・フェロー（TF）育成プログラムを実施しています。高度な「専門性」と「教える力」を同時に学び、最終段階では授業を担当できるレベルに育成します。

プログラムの特色

01 専門領域やこれまでのTA経験は問いません*1

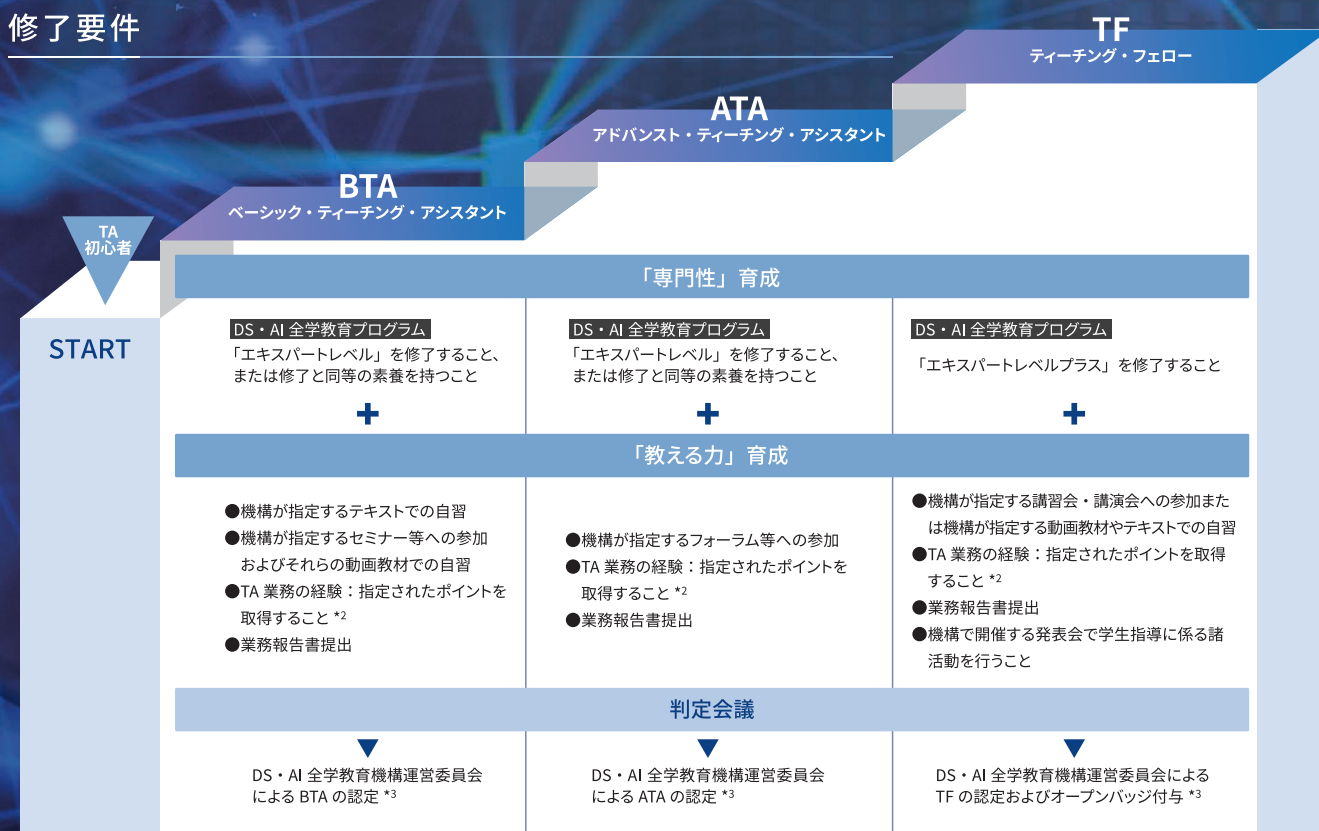
02 「教える力」と「専門性」の両方が身につく

03 ティーチング・フェロー認定後に、修了証（オープンバッジ）がもらえます

04 ティーチング・フェローになると、本機構が開講する授業の一部を担当することが可能です

*1 専門領域を問わず理工学系全学院からTAを募集・採用しています。
DS・AIに興味がある学生のみならず、TAをやってみませんか？原則として年2回（7～8月、12～1月頃）TAを募集しています。詳細は当機構サイトでご確認ください。（<https://www.dsai.titech.ac.jp>）

修了要件



*2 TA業務の経験に応じて、機構で定めたポイントを付与します。定められたポイントを取得することが次の段階へステップアップする一つの要件となります。

*3 BTA・ATA・TFの認定は年2回（9月・3月頃）行います。

共創型エキスパート人材

DS・AIを駆使する

DS・AIの理論的な基盤を体系的に身につける

TF育成プログラム

DS・AIで交わる

専門の境界を越えて多様な人々と交わる

DS・AIを教える

未来を担う若者を教えられるトップ人材

オープンバッジとは



強固なセキュリティシステムで偽造・改ざんを防いだ、国際技術標準規格のデジタル証明書です。電子メール署名や自己紹介状、履歴書に付けたり、ソーシャルメディア（LinkedIn、Facebook、X）、ウェブサイトといった様々なプラットフォームに載せてアピールできます。

モデルプラン

ティーチング・フェロー育成プログラムを修了するためにかかるステップアップの最短モデルは1年半です。



講師として「教える力」を育成

模擬講義に向けて DS・AI 機構の教職員／先輩ティーチング・フェローが、授業デビューまで徹底サポートします！

- 01**
担当教員と面談
DS・AI 機構の教員と面談し、今後の進め方について確認します。
- 02**
事前学習
講習会を受けていただくにあたり、事前学習用の教材を指定します。
ご都合の良い時間に予習してください。
- 03**
講習会
「教える力」と「専門性」を養うために講習会を受けていただきます。
講習会後には、模擬講義を行うための準備に入ります。
皆さん一人ひとりに対し、DS・AI 機構の教員が1名、メンター教員としてつきます。
専門性の観点から模擬講義の内容に対してアドバイスをを行い、皆さんからの質問に対応します。
- 04**
模擬講義①
対面実施（例：20分講義＋20分フィードバック）
DS・AI 機構の教員より、「教える力」と「専門性」の両面からフィードバックを行います。
- 05**
模擬講義②
対面実施（例：20分講義＋20分フィードバック）
DS・AI 機構の教員のほか、学内の教育能力開発および向上支援を担う教員、
場合によっては研究室の指導教員等が参加し、「教える力」と「専門性」の両面からフィードバックを行います。

Column

実際の授業（1回分）を担当

模擬講義の様子



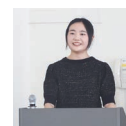
授業担当の様子



授業担当教員のもと、ティーチング・フェローとして機構開講科目の授業の一部を担当します。

修了者の声

学生に教える過程で、自分自身の知識の細部を改めて学び直し、理解をより深めることができました。模擬講義では、DS・AI 教育の実務経験が豊富な先生方から多くのフィードバックをいただく機会があり、それを基に授業を改善するというプロセスを通じて、教える力が成長したと感じました。



講義科目例

応用基礎データサイエンス・AI 第一 (DSA.B201 / 1Q・3Q 開講)
応用基礎データサイエンス・AI 第二 (DSA.B202 / 2Q・4Q 開講)